

## 新しい公共支援事業の成果等報告(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

平成24年度中間報告書

## 1 事業実施内容

事業名	森林環境教育促進事業	
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠	
事業実施主体名	特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	
事業概要	NPOと県が協働することにより森林環境教育が学校教育現場で実施される機会の増大をはかるよう、コーディネーターが学校で促進にあたる体制を確立する。また、森林環境教育を展開することが事業型NPOの資金調達手法となる仕組みを構築し、NPOが積極的に社会的企業として発展する機会の1つとしてとらえ、森林環境教育にNPOが継続的に関わる事業展開を検討する。	
委託額 (内訳は別紙参照)	平成23年度	—
	平成24年度	2,499,000円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	●協働事業参加組織	
	三重県農林水産部みどり共生推進課 NPO法人森林の風	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	H24.4.11	事業内容の確認・共有化/今後の進め方
	H24.6.7	実施事項の確認/今後の予定
	H24.6.15	事業確認(NPO室招集)
H24.9.25	実施事項の確認/今後の予定	
取組内容	●これまで取り組んできた内容	
	<p>1. 森林環境教育コーディネーターの配置及び森林学習の企画実施</p> <p>(1) コーディネーターの配置 コーディネーターとして南部担当の当校の他にNPO法人森林の風が北部担当となり事業を実施した。両NPOともこれまで学校教育における森林環境教育に携わる実績があったため、活動はスムーズに開始できた。開始時、申込書等共通フォーマットを作成し共有した。</p> <p>(2) 森林学習の企画実施のための調査</p> <p>① 電話による調査(～9月) 昨年度三重県が実施した森林環境教育についてのアンケート調査結果を元に森林学習希望があった65校に電話で聞き取り調査を実施した。さらにコーディネーター側の情報による独自アプローチにより2校、学校側から問合せが2校あり、最終的に69校に電話による調査を実施した。その結果、69校のうち12校が実施希望があることがわかった。この12校のうち新規校は6校であった。 ※昨年度実施した学校は12校であったが、うち6校は今年度実施しない方向である。理由は2学年まとめて実施しているため隔年で実施希望・授業数の減少・そ</p>	

もそも課外授業の枠でしていたため対象外となった等である。

### (3) 森林学習の企画実施のためのコーディネーター

#### ① コーディネーター

実施希望校に対して、訪問か電話により実施に向けた打合せを実施した。直接訪問6校、電話6校(うち実施2校)において調整を実施した。このうち8校が実施決定となり、4校調整中である。

#### ② 事業実施

過去に実施したことのある学校で以前と類似のものを希望した2校は6月と7月に事業を実施した。内容については、都市公園にて1時間程度でできる森林環境教育の入門にあたるものと、専門講師がついた間伐という林業の一分野を体験する高度なものであったため、既存の内容ではあったが事例としては適切であった。また四日市市では二つの小学校をもつ地区青少年育成協議会から希望があり、9月上旬に木工クラブを通して森林に親しむ事を目的とした授業を実施する予定だった。雨の為中止となったが、北部コーディネーターとして初めての企画であり、打ち合わせから準備までの経験を積む事ができた。

#### 調査 69 校

- ・アンケート調査結果 65 校
- ・独自アプローチ 2 校
- ・学校からの問合せ 2 校

#### 実施希望校 12 校

- ・新規 6 校
- ・既実施校 6 校

#### 実施校 3 校

- ・6月、7月、9月/3校
- ・実施決定 4 校
- ・検討中 4 校

## 2. 県による相談窓口設置及び広報活動

### (1) 県事業「みえの森っ子まなびや・森のせんせい」との連携

県の森林環境教育普及の一環となっている事業と連携をしながら事業を推進した。電話調査の際、県事業の紹介をしたため、実施決定校のうち2校では「森のせんせい」活用希望した。この2校は過去森林学習実践校であり、上手く関係する事業予算を活用して事業を継続する姿勢が見られる。

### (2) イベントでの広報活動

5月 NPO 法人森林の風が四日市博物館で展示をした際、今回の事業紹介のパネルを展示していただいた。また、10月に県主催「みえ森林フェスタ2012」にて森林環境教育の事例紹介を実施する予定となった。

### (3) インターネット

フェイスブック等県で持つインターネット上の広報ツールにて情報提供が可能であるという提案いただいた。9月以降に検討予定である。

※事業提案当初に含まれていた県教委との連携については会議の結果、検討会に担当者に同席し、情報提供する等の方法で11月以降に実施することとなった。

## 3. 自立した活動についての検討会

森林環境税の最新情報を集める程度にとどまっている。

●当初(採択時)に計画していた内容から変更したこと  
特になし

### ●現状の成果と課題

<成果>

#### 1. コーディネーターの配置

森林環境教育コーディネーターの配置についてはスムーズに実施でき、調整は順調といえる。

#### 2. 企画実施の順調さ

概ね実施希望校は抽出でき、実施希望校に対して具体的なコーディネーターに入

	<p>っている。</p> <p>3. 広報活動  &lt;課題&gt;</p> <p>1. コーディネーターとしての新たな事業型 NPO の不足  現状の課題としては、目標実績指標の一つであるコーディネーターとなる事業型 NPO と接触不足であることが挙げられる。8 月中は学校での森林学習の調整に集中したため、新たなコーディネーターの発掘ができていない。</p> <p>2. 資金調達  資金調達については平成 26 年 4 月から導入が決定した森林環境税に期待することと、県の森林関係予算を活用することが話題に出た程度である。また他の可能性としては、各団体が認定 NPO となり、独自の資金調達を試みる方法についても検討する事が挙げられた。</p>
<p>今後（平成 24 年度下半期）の  取組予定内容</p>	<p>1. 森林環境教育コーディネーターの配置及び森林学習の企画実施  (1) 森林学習の実施  すでに開催した 2 校を除き開催が決定している 6 校を実施するとともに、現在検討中である 4 校についても実施が実現できるように調整する。また、目標 8 校を達成後も、実情が許せば新規校での実施を積極的に推進する。</p> <p>(2) コーディネーターとしての事業型 NPO 発掘  新たなコーディネーターとして NPO を発掘する。可能であれば、今年、数校の実施は新たなコーディネーターに関わりを持ってもらえるように努力する。</p> <p>(3) 新たな講師の登用  県の人材登録「森のせんせい」に登録されている方を積極的に講師として活動していただく機会を持てるよう努力する。</p> <p>2. 広報活動  インターネット等での広報の他、イベントでの活動紹介(1 回以上)を実施する。</p> <p>3. 資金調達  資金調達の可能性については、森林環境税についてどのような経過をしているのかを整理しつつ、1 つの資金源に固執しなくてもいい方法を多面的に検討する。</p>
<p>平成 25 年度以降  の見通し</p>	<p>森林学習の実施については、来年度も継続する学校が多いと予測している。しかし、コーディネーターの関わりが重要である学校もあるため、事業型の NPO が積極的に関わる体制を保持することが適切と考えている。しかし、資金調達は実施に際して必要であるため、今年度中の確保が必要である。</p>

## 2. 成果の達成状況等

平成 24 年度に達成しようとする成果	① 学校における森林環境教育の実施がコーディネーターにより促進されていること ② 森林環境教育に関わる事業型 NPO が複数あること			
具体的な指標の達成状況等	項目	当初目標設定	9 月末日の達成状況	平成 25 年 3 月末日達成見込み
	① 学校数	目標値(8)/ 現状(12)	3	8
	② 事業型 NPO 数	目標値(2)/ 現状(1)	2	2(3) ※ 検討中
	● 成果指標の達成状況			
	① 学校数については中止になったものを含め現在実施 3 校、実施決定 5 校、調整中が 4 校ある。そのため、当初の目標は達成出来る。達成した後でも、予算等状況が許せば、新規校を中心に受け入れをする可能性もある。 ② 現在、当校を含めて 2 つのコーディネーターが活動中である。目標を達成しているため、さらにもう 1 つコーディネーターを増やす検討をしている。			
● 課題 および その改善方針				
課題としては、コーディネーターとして活動する事業型 NPO を増やす検討をしているが、9 月末で、候補がない状態である。現在の 2NPO での活動がスムーズであるため、マニュアル化して事業継続を依頼する準備は可能であるが、情報収集からはじめていると時間が必要である。また、コーディネーターとして活動してもらうためには今年度中に森林学習の現場で一緒に活動するのが適切であるが、場合によっては間に合わない可能性もある。 これらのことを検討しつつ目標値を上方修正するかどうかは検討が必要である。				
現状の自己評価	評価ランク <input type="checkbox"/> S: 特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A: 優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B: 一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C: 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D: 成果が得られなかった (該当する評価にチェックを付けてください)			